



理事長就任にあたって

学校法人京都薬科大学 理事長 木曾 誠一

この度、土屋前理事長の後任として選任され、2023年5月30日付けで本学の理事長として就任致しました。

京都薬大は139年にも及ぶ長い歴史と伝統を誇り、優れた薬学教育と研究の場として多くの優秀な人材を輩出してきました。この伝統ある名門薬科大学をさらに発展・成長させて行くことが、私に課せられた使命と考えますと、その責任の重さに身の引き締まる思いであります。

私は1982年に本学の修士課程を修了後、旧田辺製薬に入社し、主に医薬品の研究開発畑を歩み、合併後の田辺三菱製薬では執行役員事業開発部長、その後、親会社である三菱ケミカルホールディングスの執行役員ヘルスケアソリューション部長として新たなヘルスケア事業の創出を担いました。その後、2014年に同グループの生命科学インスティテュートの代表取締役常務執行役員、翌年には代表取締役社長に就任し、昨年までの7年2ヶ月の間、その責任を担って参りました。

また、大学教育に関しては、2000年に名古屋大学医学部より博士号を授与頂いたご縁で、同大学で10年間非常勤講師として、その後、京都大学などで非常勤講師、東北大で特任教授、そして、現在は神戸大学と藤田医科大学の客員教授として関わっています。その中で大学教育の現状や課題に触れ、大学経営の大変さも感じておりました。

卒業後の本学との関わりは、クラス代議員として京薬会を通じて大学の現状などを見聞きする程度でしたが、武田元理事長から評議員、理事への就任のお話があり、何か母校に貢献したいと思っていた折でしたので、お受けさせて頂きました。その後は土屋前理事長の推し進める「大学の価値を高める」方策の立案、実行を理事として時には意見させて頂きながら、ご一緒して参りました。

私は土屋前理事長が推進されてきました「大学の価値を高める」ことは、本学が生き残り、成長するための最も大切な要件と考えています。ただ、「大学の価値を高める」ことは目的ではなく、手段で

CONTENTS

■ ご挨拶

理事長就任にあたって	1
就任・新任・昇任のご挨拶	2

■ お知らせ

お知らせ	4、9、23
人事	5
京薬会だより	8
Library News	9
2023年度試験日程について	15
生涯教育センターからのお知らせ	17
2024年度 京都薬科大学入学者選抜概要	18
2024年度 大学院入学選考概要	19

■ コラム

卒業生からのメッセージ	12
私の薦める、私の一冊	13
学生相談室だより	21

■ 報告

2023年度新入生オリエンテーションで 学生スタッフが活躍しました	6
事務局お仕事紹介	8
2023年度入学試験結果と総括	9
沖縄科学技術大学院大学 (OIST) 留学体験記	10
5年次生対象の2022年度ドイツ薬局オンライン研修を開催しました	11
2022年度 授業評価集計結果の報告	14
大学基準協会による大学評価（認証評価）において 適合認定を受けました	16
薬学教育評価において適合認定を受けました	16
令和5年度科学研究費助成事業 採択状況	22
受賞・掲載	24
京都薬科大学奨学寄附金芳名録	28

す。我々の目指すものは、優秀な人財を輩出することにより、薬学を通じて医療に貢献する、健康を願う人々に貢献することであると考えます。即ち、大学の価値を高め、選ばれ続ける大学になることは、優秀な人財が京都薬大に集うことに繋がり、その人財を更に磨き、育て、優秀な薬学人財として社会に輩出することにより医療に貢献することが目的であり、目指すものです。

一方、薬学人財を輩出すると言いましても、どのような仕事につくのか、就職は学生諸君にとって最も悩ましい問題であると思います。その点は、長い歴史を持ち、多くの薬学人財を輩出している本学の強みが生かされます。様々な業界で活躍されている卒業生の皆さんは各業界の現状、課題、求められる人物像などの大切な情報をお持ちです。学生諸君がこれらの情報を知っている場合と、知らない場合では就職への取り組み方が全く違ってくると思います。どのような業種が自分に合っているのか、その未来にはどんなことがあるのか、学生諸君は不安の中、より多くの情報を求め活動されますが、まさにその現場で仕事をされている先輩方の生の声に触れることが出来れば、非常に心強いものになると思います。その意味で、卒業生の集う京薬会との連携は非常に重要であり、これまで以上に連携を強化しながら、一体となって本学の価値向上を図っていくこ

とが大切であると考えております。

最後に、コンプライアンスについてですが、医療に関わる大学として、コンプライアンスおよび倫理については他の大学にも増して厳しく臨まなければなりません。コンプライアンスや倫理なくしては、教育や研究も成り立ちません。コンプライアンスや倫理が守られるからこそ、教育、研究を行うことができ、大学教育の場が成り立ちます。

例えば、研究不正があれば、論文は取り下げとなり、また、職場で不正があれば、その仕事は否定され、法的な裁きを受けなければならないこともあります。すなわち、コンプライアンスや倫理は我々の活動の基盤であり、それなくしては活動できないことを今一度全ての方に確認して頂きたいと思います。

139年の歴史は間違いなく、我々の大きな財産です。しかしながら、過去の延長線上に未来はあるのかと問われれば、少なくとも未来における飛躍はないと答えるしかありません。長い歴史と伝統という財産を大切にしながらも、新たなチャレンジを恐れず、変革を続けて行かなければなりません。皆さんとともにチャレンジを続け、京都薬科大学の発展と成長に取り組んで参りたいと思いますので、何卒これまで以上のご支援・ご協力をお願い致します。

就任のご挨拶



学生部長

さとう たけし
教授 佐藤 毅

本年4月1日付で学生部長を拝命いたしました。前任の野崎亜紀子教授に続き、学生部委員会、学生課の皆さんと共に、本学に学ぶすべての方々にとって学生生活が実りあるものとなるように、そしてまた本学が更により良くあるように、役割に努めてまいりたいと思います。よろしくお願いいたします。

本学学生の皆さんは、薬学を背景として医に携わる専門家の一角を担うべく学びに取り組まれていると思います。学部、大学院での学びを修められた後、社会での活躍のあり方は様々であると思われますが、各々の場での活躍に向けた専門家としての基盤を確立することが、本学学生の皆さん共通の目標

と思われます。そのために、大学での学びには、自ら独立した姿勢（自立）と、自らを律する姿勢（自律）が求められます。これらは確かに重要です。そして、同じくらい重要なことは、嬉しさ、悲しさ、困惑等の感情や考えを、然るべき時、然るべき相手に伝えること、また逆に それらの言葉を受け止めることです。学生生活において、何度も体験することであると思いますが、これは、おそらく、簡単なことではありません。

本学には、学生生活上困った時に相談できる複数の場が設けられています。学生課、学生相談室は、それら複数の場の中のひとつです。学生の皆さんにはこのことを、忘れないで頂きたいと思います。

専門性の高い教育・研究を実践する京都薬科大学において学ぶ学生の皆さんが、本学で存分に学びの時間を過ごし、社会の中で専門家として活躍できるよう、微力ながら尽力したいと思います。ご関係の皆様には、ご指導賜りたくお願い申し上げます。

新任のご挨拶



医療薬科学系
薬剤学分野

いしま ゆう
教授 異島 優

2023年4月1日付で、医療薬科学系・薬剤学分野の教授を拝命いたしました。私は、2002年に熊本大学薬学部を卒業後、同大学院薬学研究科に進学し、小田切 優樹教授のもと2007年に博士（薬学）の学位を取得しました。その後、同大学医薬高分子学分野（甲斐 俊哉教授）の特任助教、米国・ピッツバーグ大学（Bruce Freeman教授）にて博士研究員として従事し、2011年より熊本大学大学薬学部 薬剤学分野

（丸山 徹教授）で助教を経て、2016年からは徳島大学大学院医歯薬学研究部 薬物動態制御学分野（石田 竜弘教授）の准教授として着任し、ドラッグデリバリーシステムや酸化ストレス研究に携わって参りました。

私は、薬物輸送に関わるアルブミンというタンパク質を研究の軸とし、この研究から派生する生命現象を解き明かし、その知見を臨床現場に生かすことを使命とし、研究してきました。着任後は、本学の先生方としっかりと連携し、創薬開発などの研究活動を進めて参ります。学生には研究の楽しさを感じてもらいながら、ファーマシスト・サイエンティストのマインドを持つ学生の育成を通じて、本学のさらなる発展に尽力します。皆さまのご指導ご鞭撻を賜りますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。



分析薬科学系
薬品分析学分野

きぐち ゆうき
助教 木口 裕貴

この度、2023年4月1日付で薬品分析学分野の助教に着任いたしました。私は2015年に神戸薬科大学を卒業後、同大学大学院に進学し、2019年に博士（薬学）の学位を取得いたしました。その後、同大学特任助教として4年間研究・教育に従事し、この度本職を拝命いたしました。

これまでは遺伝子操作により抗体の構造を改変す

る「抗体工学」を基盤として、免疫測定法の高感度化に資する高親和力抗体の作製を行ってきました。この経験を活かしつつ、本学の研究基盤を活用してユニークな分析化学研究を展開していく所存です。講義については初めてですが、学生自ら興味を持って学習に取り組んでもらえるような教育を目指したいと思っております。

浅学の私ではありますが、「知識の教授」ととどまらず、個々の学生における「科学的思考力の醸成」をサポートする理想の教員像を目指して研鑽を積み、本学の発展に貢献したいと考えております。ご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



薬学教育系
学生実習支援センター

はやし みさ
助教 林 美沙

2023年4月1日付で学生実習支援センターに着任いたしました。私は2016年3月に武庫川女子大学薬学部健康生命薬科学科を卒業後、同大学大学院修士課程へ進学しました。その後、5年間同大学薬学部にて助

手として東洋医薬学研究室の高明教授のご指導の下、教育・研究に関わってきました。また、助手として勤務しながら同大学大学院博士後期課程（課程によらない博士）で、2023年3月に博士（薬科学）の学位を取得しました。

教育者としてまだまだ未熟ですが、実験実習教育に尽力していきたいと考えております。

学生の皆様とともに、私自身もさらに成長していたらと思いますので、ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

昇任のご挨拶



事務局
庶務課

すなだ しんや
課長 砂田 真也

2023年4月1日付で庶務課長を拝命いたしました。このような大役を任せていただくことになり、責任感をひしひしと感じています。

ここ数年は、コロナ禍であったため、これまで当たり前に出来ていたことが出来なくなり、未知のストレスに対する不安、人との接触が制限されること

に対する孤独感・閉塞感、情報過多による疲労感などがありました。

5月8日から新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが2類相当から5類に移行となりこれまでの制限が大幅に緩和されますが、コロナ禍前に戻るには相当な時間が必要になると思います。

庶務課として少しでも皆様が教育研究やその支援に専念できる環境づくりを目指して、微力ではありますが、今まで以上に業務に邁進していきますので、これからもご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

News お知らせ

庶務課

■ 2022年度 卒業証書・学位記（学士）及び学位記（博士）授与式

2022年度卒業証書・学位記（学士）及び学位記（博士）授与式を、2023年3月18日（土）午前10時から創立130周年記念館で執り行いました。今年度も昨年に引き続き、参加者の人数制限、間隔を空けた座席の配置などの感染症対策を行い挙行了しました。保証人等は、5つの講義室に分かれて入室のうえ、式典会場からの中継を視聴いただきました。また、式典の様子をライブ配信及びオンデマンド配信を行いました。

薬学部 薬学科341名に卒業証書・学位記（学士）、大学院 薬学専攻博士課程10名に博士（薬学）、及び課程によらない博士（薬科学）1名に博士（薬科学）の学位記が、課程ごとの代表者に赤路学長より授与されました。

コロナ禍で中止していた管弦楽部による祝奏と合唱部（ユーベルコール）による学歌斉唱が復活し、会場に華やかな雰囲気が戻ってきました。



卒業証書・学位記授与式の様子

■ 2023年度 入学宣誓式

2023年度入学宣誓式を、2023年4月1日（土）午前10時から創立130周年記念館で挙行了しました。2023年度新入生数は、薬学部薬学科437名、大学院 薬学研究科薬学専攻博士課程10名でした。卒業式と同様の感染症対策を行い、保証人等は6つの講義室に分かれて式典会場からの中継を視聴いただきました。また、式典の様子をライブ配信及びオンデマンド配信を行いました。

卒業式に引き続き、マンドリン部による祝奏と合唱部（ユーベルコール）による学歌斉唱が復活し、会場に華やかさを添えていました。



赤路学長の式辞

採用

医療薬科学系薬剤学分野 教授 異島 優
(任期：2023. 04. 01～2033. 03. 31)
分析薬科学系薬品分析学分野 助教 木口 裕貴
薬学教育系教育研究総合センター
学生実習支援センター 助教 林 美沙
(以上任期：2023. 04. 01～2028. 03. 31)
薬学教育系教育研究総合センター
臨床薬学教育研究センター
特命教授 五十嵐恵美子
薬学教育系教育研究総合センター
臨床薬学教育研究センター
特命教授 杉本 幸枝
薬学教育系教育研究総合センター
臨床薬学教育研究センター
特命教授 中村 直美
(以上任期：2023. 04. 01～2024. 03. 31)
事務局庶務課 契約専門職員 坂口 義美
事務局研究・産学連携推進室
契約専門職員 武野 薫
(以上契約期間：2023. 04. 01～2024. 03. 31)

昇任

事務局庶務課 課長 砂田 真也
(前 事務局庶務課課長補佐)
(2023. 04. 01付)

配置換

統合薬科学研究施設シナジーラボ 教授 高田 和幸
(前 統合薬科学系)
統合薬科学研究施設共同利用機器センター
助教 扇田 隆司
(前 薬品物理化学分野)
(以上2023. 04. 01付)

兼務

事務局情報管理推進室
兼務 事務局研究・産学連携推進室
室長 栗田 晃
(2023. 04. 01付)

任命

学生部長 一般教育分野 教授 佐藤 毅
(任期：2023. 04. 01～2024. 03. 31)
共同利用機器センター長
薬化学分野 教授 古田 巧
(任期：2023. 04. 01～2025. 03. 31)
薬用植物園長
公衆衛生学分野 教授 渡辺 徹志
(任期：2023. 04. 01～2024. 03. 31)

ラボ長 シナジーラボ 教授 高田 和幸
(任期：2023. 04. 01～2025. 03. 31)
創薬科学系長 薬化学分野 教授 古田 巧
生命薬科学系長 衛生化学分野 教授 長澤 一樹
病態薬科学系長 病態生化学分野
教授 秋葉 聡

医療薬科学系長 臨床薬剤疫学分野 教授 村木 優一
基礎科学系長 一般教育分野 教授 佐藤 毅
(以上任期：2023. 04. 01～2025. 03. 31)
分野主任 医療薬科学系薬剤学分野 教授 異島 優
病態薬科学系臨床薬理学分野
(薬物動態学分野教授)
教授 栄田 敏之
基礎科学系一般教育分野 教授 佐藤 毅
(以上2023. 04. 01付)

再任

病態薬科学系薬物治療学分野 教授 加藤 伸一
薬学教育系教育研究総合センター
臨床薬学教育研究センター 講師 中村 暢彦
(以上任期：2023. 04. 01～2028. 03. 31)

退職

医療薬科学系薬剤学分野 教授 山本 昌
病態薬科学系臨床薬理学分野 教授 中田 徹男
基礎科学系一般教育分野 教授 實川眞理子
基礎科学系一般教育分野 教授 野崎亜紀子
薬学教育系教育研究総合センター
臨床薬学教育研究センター 教授 矢野 義孝
創薬科学系薬品製造学分野 准教授 小島 直人
病態薬科学系薬物治療学分野 准教授 松本健次郎
薬学教育系教育研究総合センター
臨床薬学教育研究センター 講師 松村千佳子
薬学教育系教育研究総合センター
学生実習支援センター 助教 河野 享子
事務局参事
兼務 事務局庶務課 課長 坂口 義美
事務局研究・産学連携推進室 室長 武野 薫
(以上2023. 03. 31付)

契約期間満了

薬学教育系教育研究総合センター
臨床薬学教育研究センター 特命教授 小川 賀偉
薬用植物園 契約専門職員 尾崎 和男
(以上2023. 03. 31付)

2023年4月1日、3日の2日間にかけて、新入生オリエンテーションを実施しました。オリエンテーション中の一部プログラムは、学内ジョブ制度を利用し、在学生在が企画・運営・補助をしています。本稿では、彼ら学生サポーターの取り組みと、彼らの感想をご紹介します。

学生サポーターの主たる業務としては、①入学式直後のアイスブレイク企画・運営、②交流会の企画・運営、③PC等の設定サポートです。3月に外部講師によるファシリテーション研修を行い、その後は学生が中心となり、アイスブレイクや交流会の企画を検討しました。

サポーターは新2年次～6年次の計17名で構成されており、各々が自身の強みを生かし、新入生のサポート業務にあたってくれました。2日目には新入生もリラックスしてガイダンスに臨んでおり、学生サポーターと談笑する姿も見られました。彼らの活躍により、新入生はスムーズな大学生活の一步を踏み出せたのではないかと思います。

■学生サポーターの感想

きだ えみこ
2年次生 木田 恵美子

今回、学内ジョブに初めて参加させていただきました。メンバーは全員初対面だったので緊張していましたが、すぐに打ち解けることができました。メンバーの皆さんは、たくさん案を出して何度も話し合っていて、私も見習おうと思いました。私が出した案がいくつか採用された時はとても嬉しかったです。終了後には、新入生からアイスブレイクがきっかけで仲が深まったという感想をもらい、サポートスタッフをして本当によかったと思いました。

たかはし
3年次生 高橋 るな

私は長期休みに何か自分の成長につながるようなことをしたいと考え、新入生サポートスタッフに応募しました。大変軽い気持ちで参加した私ですが、学年も部活も異なる方々との新しい繋がりや、イベントの企画から運営まで全てをこなすという貴重な経験を得られました。業務当日は朝から慌ただしくしておりましたがその甲斐があったのか、新入生の方からは好評をいただけたようでとても喜ばしく思います。

むらかみ りく
3年次生 村上 陸

私は昨年度に引き続き2回目のサポーター業務でした。昨年度の経験を活かし、新入生がより大学になじみやすくなるような企画作りに貢献できたと思います。しかし、当日にはやはりイレギュラーも起こり、その対応にはサポートメンバー同士のコミュニケーションを要したため、事前のファシリテーションスキル向上研修での交流も非常に有意義だったと感じます。

時間をかけて企画・運営を行った分、「アイスブレイクでできた友達と授業を受けている」といった新入生の声にはとてもやりがいを感じました。



アイスブレイクの様子



交流会の様子

いたはら みづき
4年次生 板原 瑞月

私は主にアイスブレイク企画の企画運営を担当しました。昨年の反省を活かして座席の配置や企画の内容を工夫し、新入生にリラックスして楽しんでもらえるようにメンバーと活発に話し合いながら企画に取り組みました。当日はイメージしていた以上に新入生の方々が積極的に楽しそうに参加してくださったので、私自身も楽しく進行ができました。学年が離れると交流の機会がほとんどないため、新入生たちにこんな先輩がいるのだと知ってもらうきっかけになったのではないかと感じています。学生スタッフの中でもいろんな学年の方がいたため、私自身も他学年の人とたくさん交流できてとても良い経験になりました。今年新入生の方が新たに学生スタッフとして参加し、盛り上げていってくれたら嬉しいです。

ますだ みき
4年次生 増田 美紀

私が入学したときは同級生同士の交流がしづらい状況であり大学生活に物寂しさを感じていました。今年の新入生には同じ思いをしてほしくないと感じジョブに参加しました。研修会ではサポーター間の団結力が向上し、準備期間では学年の壁を感じることなく楽しみながら企画を練ることができました。交流会当日では新入生同士が話している様子が見られて嬉しく思いました。交流会のサポートで私自身、企画・運営に関わることができ、充実した春休みを過ごせました。新入生が交流会をきっかけとして多くの人と大学生活を楽しんでいただけたら嬉しいです。

かとう ゆい
5年次生 加藤 友唯

今回、新入生オリエンテーションサポートスタッフをするのは初めてでしたが、とてもいい経験になりました。交流会では、新入生が就職、研究室、勉強の仕方など積極的にたくさんの質問をしてくれました。私なりに回答させてもらいましたが、新入生の不安や疑問が少しでも解消できていたならうれしく思います。私にとって、とても楽しく有意義な時間でした。ジョブメンバー、大学職員の方、新入生の皆さん、ありがとうございました。

そのだ ひろたか
6年次生 園田 裕崇

サポートする立場でありながら、学ぶことの多い経験でした。その中で、今年の1年生は活発な学年だと感じました。私はOPトークを担当しましたが、そのころには既に仲良くなっている方もいたことに感心していました。また、OPで話した内容が会話の足掛けとなったこと、今回のプログラムを高く評価いただいたことは非常に嬉しく思います。今回の活動が自分たちだけでなく、新入生の役に立ったことはサポーター冥利に尽きるなと感じています。



学生サポーター全員集合！

■ 第3弾 情報管理推進室

こんにちは、KPUnews編集委員の学生です。事務局紹介も今回で3回目となりました。今回は、情報管理推進室の紹介です。

私たちは4年生なのですが情報管理推進室の方との直接的な関わりは今までありませんでした。というのも今の3年生以降は入学してからのオリエンテーションでOffice365等の使い方を直接指導していただいたそうなのですが、4年生はコロナ禍の制限中だったためそういった機会がありませんでした。そのため今回お会いするのが初めてでしたが、とても楽しくお話をお伺いすることができました。

情報管理推進室は愛学館7階にあり、3人でお仕事をされています。主な仕事内容は、私たちの授業が円滑に進むようOffice365や学内Wi-Fiの管理をはじめ、情報機器・情報システムのマニュアル作成になります。K11・21演習室にあるパソコンの管理は別の部署が行なっているのですが、普段学生が使用するOffice365のアプリで不具合や何かわからないことがあれば情報管理推進室に行くと相談に乗っていただけます。全学年の授業や教員との連絡等で使用するTeamsのチャネルを全て管理されており、その数は200以上だと聞いて驚きました。学生との関わりは少ないですが、実は大学生活の縁の下での力持ちです。そんな、情報管理推進室の事務職員さんから、学生の皆さんに、メッセージをいただきました。

“薬局等でICTを導入しているところは増えてきており、情報システムを扱えるというのはどこに就職しても必ず武器になってきます。薬学とは無縁なものとは考えず、学生のうちに少しでも興味があるなら触れてみてほしいと思います。セキュリティの意識も持ちながら、安全に最大限に活用してみてください！”



興味津々に取材をする学生編集委員

News 京薬会だより

2023年度京薬会定時代議員総会を5月27日（土）、躬行館T31講義室においてハイブリッド形式で開催しました。

大学から土屋理事長、赤路学長、松田事務局長のご臨席のもと、出席者は総勢139名（代議員：101名）でポストコロナのためか多くが現地での対面出席となりました。

任期満了に伴う役員改選が行われ、4期12年間会長を務められた西野武志氏から交代した新会長の平松信祥氏（前副会長）をはじめ25名の役員が選任されました。

今年度は京薬会創設80周年の節目であり、大学との連携を図りながら「在学時から卒業後の生涯にわたるキャリア支援」に繋げる新たな事業計画等が承認されました。



総会集合写真



代議員総会の全景

■受章

令和5年春の叙勲

瑞宝中綬章 名誉教授（元学長） 乾 賢一氏

令和5年春の叙勲において、長年にわたる教育研究のご功績による本学名誉教授（元学長）乾 賢一氏が、瑞宝中綬章を受章されました。皆様とともに叙勲の栄誉を心からお祝い申し上げます。



データベースを使ってみよう！—日経BP記事検索サービス—

図 書 館

就職活動をすすめるにあたって、目指す業界や企業の最新動向、時事問題などさまざまな情報収集に役立つデータベースがあるのはご存じでしょうか？“日経BP記事検索サービス”では、「日経ビジネス」や「日経コンピュータ」、「日経ドラッグインフォメーション」、「日経メディカル」といったビジネス、IT、医療など各分野の専門誌（約50誌）の記事検索・閲覧をはじめ、[就活情報を収集する]タブでは、優良企業ランキングや「業界研究」「企業研究」「地域経済」のカテゴリから興味のある業界の実情や最新ビジネスなど企業分析に有用な情報を検索することができます。また、論文やレポート作成のサポート、パソコンスキルの向上につながるコンテンツも多数あり、研究テーマに関連の深い記事を簡単に検索できるほか、記事の引用作法やOfficeの使い方、Word、Excelを使った文書作成術も紹介されています。多様な用途に活用できるデータベースですので、利用規約を遵守したうえで、ご自身の目的や関心に応じてご利用ください。こちらのデータベースは、図書館HP→[データベースで探す]からアクセスできます。

本学図書館の開館日程についてはホームページをご覧ください。
<https://www.kyoto-phu.ac.jp/library/>



2023年度入学試験結果と総括

Report

入試課

2023年度入学者選抜結果について、志願者数および合格者数は表の通りです。2023年度の志願者数は前年比1名増加し、1,992名となりました。

入試広報活動について、6月・8月は当初予定を一部変更し、対面講演は中止となりましたが、学内自由見学とオンライン配信による講演を行い、10月のオープンキャンパスは対面講演とオンライン配信の同時開催で実施しました。これにより、遠方の方でも容易に参加でき、本学の魅力を知っていただく良い機会になっ

たのではないのでしょうか。

また、3月には、オンラインで視聴ができるWebキャンパス交流会を開催しました。このイベントは、高校1・2年生を対象に薬学部での学びや卒業後の将来のイメージを知っていただけるよう企画しております。

2024年度入学者選抜においても広報活動を通じて本学の魅力を伝え、志願者獲得に努める所存です。皆様のご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

	募集人員	志願者数	合格者数	入学者数
学校推薦型選抜 (指定校制)	50名	54名	54名	54名
学校推薦型選抜 (一般公募制)	90名	240名	101名	101名
一般選抜A方式	45名	768名	436名	97名
一般選抜B方式	170名	882名	469名	178名
一般選抜C方式	5名	48名	15名	7名

3年次生の春休みに、日本の内閣府が科学技術振興のために設立した沖縄科学技術大学院大学（OIST）で毎年春に行われるOIST Science Challenge 2023（3月11日～3月19日）に参加する機会を得た。

英会話力を向上させるために、大学入学前から留学に行きたいという思いがあり、薬学系単科大学にも関わらず留学プログラムが充実している本学に入学した。しかし、COVID-19の影響により2、3年次生を対象にした留学プログラムに参加する夢は叶わなかった。そこで、8割の学生が外国人であり、学内での公用語が英語であるOISTで開催されるScience Challengeというプログラムを知り応募した。今年度の選考は、“How will your research impact society?” をテーマとした英語のスライドプレゼンテーション6枚、および志望理由、科学に対する興味などを英語でまとめた応募理由書に基づいて行われた。全世界の高専生、大学生、大学院生（修士課程）から募集がある中で、私は25名の1人として選ばれた。参加者の国籍は日本だけでなく、ミャンマー、中国、韓国など多種多様であり、物理系、化学系、生物系、海洋系、情報系など、様々な専門分野の理系学生の参加者およびOISTの大学院生と英語で交流した。



OISTの大学院生と実験実習

本プログラムは、ほぼ毎日学内で三食を済ましたほどハードで、朝から晩までぎっしりスケジュールが組まれていた。OISTの教員による講義の受講、OISTの学生との実験実習、大学施設や研究室及び寮の見学などがあった。中でも特徴的だったのは、様々なテーマに対して5名程度でディスカッションをし、短時間でテーマの内容をまとめ、英語で発表するプログラムである。特に、社会において自身の研究で利益を生む方法についてや、与えられた道具を使用して実験を考え、その実験結果をプレゼンしたことが印象的だった。お互いの専門分野が違うからこそ、同一のテーマに対して様々な視点での意見が飛び交い、それらの多様な考えを融合させることで全く新しい解決策を見つけることができた。更には、学会で使用するポスターを専門外の人にもわかりやすく魅力的に見



グループワーク

せる方法を学んだ。また、選考の際に使用したスライドをより良いものに改良するために何人ものOISTの大学院生に自ら話しかけ意見を貰い、本プログラムの参加者と明け方まで練習し、最終日に1人ずつ発表した。



海洋系の研究室見学

その他にも、昼食や夕食の自由時間を活用し、有機化学系の研究室の先生方にアポを取りお話を伺った。私は現在、有機合成触媒の開発研究に取り組んでいるが、その内容についてOISTの教職員と議論したことにより、更に探究心が刺激された。プログラムが終わった後は、寮に戻ったが、OISTでの1日はこれでお終いではない。寮から繋がっているビーチや、ラウンジ、カフェテリアでタコスパーティーやダンスパーティー、クイズ大会などが深夜まで開催されOISTの学生と交流した。そのあとは、本プログラムの参加者だけで毎日ラウンジに集まり、お互いの研究や専門的な話を教え合った。特に京都薬科大学は単科大学であるため、異なる分野を専門とした学生と出会う機会は少なく視野が狭くなりかねない。



アイデアを出し合っている様子

しかし、それぞれの分野は、独立しているようで、実際は全てが密接に繋がっており、自身の専門を極めるためには全く異なる様に思われる分野についての知識が必要不可欠である。薬化学分野を専攻している私は、一見有機化学についての知識だけが求められると思われるが、それだけでは全く不十分であることに気づかされた。化学反応

は基本的にエネルギーの大きい方から遷移状態を経て小さい方へと進行する。エネルギーは物理学の範囲であり、そのエネルギーを計算するためには数学や情報系であるプログラミングのスキルが求められる。また、合成した化合物を医薬品に応用するためには、生物学の知識が必須である。

どの異分野の参加者と互いの専門の話をしても、必ず有機的に関連している領域が見つかり、睡眠時間を削って教え合うことにより知識を共有した。これは、向学心に溢れた学生が集まる場だからこそ実現可能であった。

沖縄に滞在した期間は僅か9日間だが、プログラムを終えた今も定期的にオンラインで輪読会を開催し、各々の研究についての解説や専門的な内容を教え合っている。また、仙台や富山、福岡といった地方に住んでいる学生とも、東京や京都に定期的に集まってご飯を食べたり遊びに行ったりと今でも交流が続いている。

る。このプログラムに参加していなければ出会うことのなかった異分野の学生との繋がりを今後も大切にしていきたい。



プログラム終了後の集合写真

5年次生対象の2022年度ドイツ薬局オンライン研修を開催しました

Report

薬品分析学分野 教授 武上 茂彦
国際交流推進室

本学では、日本の薬局・病院実習を終えた5年次生を対象に、ドイツで薬局を経営されているアッセンハイマー慶子先生から、医薬分業発祥の地ドイツの薬局薬剤師業務やその考え方について学べる機会を提供しております。今年度は2月20日～22日の3日間（各2時間）、オンラインで開催しました。

各3日間のテーマは下記のとおりです。

- ① 町の科学者、薬剤師としての基本姿勢
- ② コロナ禍のドイツ薬局の取り組み
- ③ かかりつけ薬剤師を目指そう

講師からは、薬剤師本来の職能が活かしにくいといった日本の薬局の課題や、医薬分業のあり方、薬剤師としての基本姿勢を徹底することの重要性、これは

何？これはなぜ？と自分で考え、自分で探すこと（探求心や独学力）の重要性、ウクライナから避難された方々への対応など多岐にわたる熱いお話があり、非常に勉強になる3日間でした。

また今年度は特別ゲストスピーカーとして、本学の2016年度卒業生で、現在ドイツフライブルクで薬剤師をされている大前先生*にも、その挑戦の過程や苦労について貴重なお話がありました。特に印象的だったのは、ドイツの薬剤師資格を得るにあたり、様々な書類集めに尽力した結果、本学で学んだ内容や日本の薬剤師資格がドイツでも一部認められ、ドイツでの資格取得に役立ったということでした。

受講した学生からは、『ドイツの薬局、ドイツの医療状況、ドイツ人の衛生観念など日本との違いを知ることができておもしろかった』という声や、『海外で薬剤師になるという挑戦のお話をお聞きし、自分にもできる可能性があることを感じることができた。』といった感想が寄せられました。

受講した学生には、本研修で学んだことを将来の仕事に活かしていただきたいと思います。

※P. 12 に大前さんからのメッセージを掲載しています。

在学中に何をしておくか？

頭の中をいつでも薬学モードにしておく

薬剤師はいつでもどこでも

- ・科学者 オールラウンド(自然科学全般)な知識
薬だけを扱う仕事でない
- ・研究者 探求心 応用の効く知識
- ・独学者 自分で問題解決する力を養う
- ・職人 様々なものが作れる
緊急時には特に大切なスキル

ドイツでの薬剤師経験

おおまえ けいこ
大前 敬子



2016年 学部卒業
(臨床薬理学分野)

ラントヴァッサー薬局 薬剤師

私は現在、ドイツのフライブルクという町の薬局で薬剤師として勤務しています。私がドイツの薬剤師を目指したきっかけは、2年次生の時に参加した、フライブルク大学主催の日本人のためのドイツ語研修です。この研修期間中にドイツの文化や生活に興味を抱き、また、ドイツの街並みに魅了され、将来ドイツで生活できたらいいなあと思うようになりました。卒業してから数年、日本の製薬会社と調剤薬局での経験を経て、ドイツに移住しました。ドイツで生活する中で、やっぱり薬学部で学んだことを活かしたいと考え、ドイツの薬剤師免許を取得し、現在に至ります。

今回は、海外での就職に興味を持つ在学生の皆さんに、私のドイツでの薬剤師としての経験をお話できればと思います。

まず初めにドイツの薬局の仕組みについてです。私が働く薬局は薬剤師6人、PTA（薬学技術アシスタント）6人、PKA（薬学商業従業員）1人で構成されています。PTAは薬剤師の監督下で処方箋業務・医薬品の販売などの薬事専門業務を行い、PKAは薬局で扱う医薬品・製品の在庫管理を行います。ドイツの薬局は日本の保険調剤薬局とドラッグストアが合体したような形で、処方箋以外にも、健康相談やOTC医薬品を購入するためにたくさんの人が薬局にやってきました。私の薬局では来局者の約2人に1人がOTC医薬品を購入しています。ドイツには日本の漢方薬とは異なった、植物由来の医薬品もたくさん流通し、医療用医薬品の中には、日本で承認されていない有効成分もあります。さらに、規格や用量も日本と異なる場合が多いです。そして、ドイツでは箱単位で医薬品が処方されます。その結果、処方箋の受け取りから投薬まで短時間で終わるので、薬局内に待合室はありません。処方内容によっては製剤の調合もありますが、受け取り時間の約束をすることが多いです。医薬品・製品の供給については、卸会社から1日数回配送があるので、在庫がない場合の対応や商品の補充を迅速に行うことができます。また、ドイツは医薬分業が徹底されているため、医師に調剤権はな



ラントヴァッサー薬局店舗内

く、処方箋はすべて院外に出ます。予防接種のワクチンの多くも医師の処方箋に基づき、薬局が発注し、患者さんにお渡ししたり、医院に配達します。

私が考えるドイツの薬局の特徴は、従業員がとてもフレンドリーで、職場の雰囲気が心地よいところです。チーム精神が高く、お互い助け合いながら業務を行っています。同僚とは対等に話をしますし、自分の意見ははっきり言います。患者さんとの距離もとても近いと感じます。患者さんの中には、日本に興味がある方も多く、よく話しかけてくださいます。そして、ドイツでは日本のお客さんは神様ではなく、患者さんとも対等に話します。ドイツでは自分の薬は自分で管理するという考えが強く、日本のように服用時点ごとに薬袋を分けたり、薬剤情報提供書を作成することはありません。もちろん、薬剤師は処方箋に基づいて服用時点の説明や、服薬の注意点などの指導をしっかり行いますが、患者さんも添付文書を読みますし、自分で責任をもって服用しているという印象を持ちました。私がドイツの薬局で働いてみて驚いたのが、薬局で健康相談をしてOTC医薬品やサプリメントを購入する患者さんがとても多いことです。薬剤師には医療用医薬品以外にもOTC医薬品やサプリメントの幅広い知識が求められます。植物性OTC医薬品の種類も豊富なので、薬用植物の知識も重要です。患者さんの症状に適した商品を選択し、的確なアドバイスを行うことはとても難しいと感じます。私はできる限り、OTC医薬品の勉強会に参加して知識を深め、アドバイスに活かす努力をしています。その分、患者さんから、丁寧な指導ありがとう、アドバイス参考になったと言っていただけると、とてもやりがいを感じます。



処方箋の受取・入力対応

私は皆さんに、興味があることにはぜひチャレンジしてほしいと思います。自分には難しいかなと思うことでも、長い人生の中で少し時間を割いて、挑戦してみる価値はあると思います。海外での活躍を志す皆さん、ぜひその夢を実現してください。海外にいるからこそ、日本との違いや、日本の良い点に気づくことができたり、新しい発見をすることは大変興味深いです。日本を飛び出して、様々な国籍の人との交流を通して、考え方や価値観の違いに対する理解を深めることは自分の成長に繋がります。言葉の壁や文化の違いにより、海外で働くことは簡単なことではありませんが、海外は思っているよりも外国人に対して寛容です。ドイツは多くの移民を受け入れている歴史もあり、たくさんの外国人が生活していますし、外国人が働ける環境があります。私の同僚もとても親切ですし、私がドイツの薬局業務をこなせるように、いつも支えてくれています。言語や仕事は現場での経験を通してどんどん身につけていくので、まずは勇気をもって一歩踏み出してみてください。私の経験が、海外での就職を考える皆さんの後押しに繋がれば幸いです。

一般教育分野 講師 いわさき だいすけ
岩崎 大輔

『思想のドラマトゥルギー』

林達夫、久野収著

平凡社（1993年）

今回一冊を選ぶにあたって非常に悩みました。その際気がついたのは、E・R・クルツィウス『ヨーロッパ文学とラテン中世』、E・アウエルバッハ『世界文学の文献学』、マリオ・プラーツ『綺想主義研究』など、私が迷ったものはどれも、哲学から文学、美術や科学など膨大な知識を有し、古典ギリシア語やラテン語はもちろん英独仏伊西露など複数の言語をやすやすと読み解く「一人の」人物が記した著作ということでした。本書は対話篇ですがそのような一冊です。

この本を手にしたのは恐らく学部生か修士課程の頃だと思います。対話形式で書かれていて読みやすそうだったくらいで、この時は「知の巨人」林達夫の名前はまだ知りませんでした。読み始めてすぐに打ちのめされました。その膨大な読書歴、知識量と、それを人と討論できるだけの消化ぶりについて



です。なんとなく知っている、聞いたことがある、程度の聞きかじりではこのような対話は成立しません。

久野が合いの手を入れるような形で林の幼少時からの知の遍歴が語られていくのですが、哲学や文学作品の話だけでなく、話題は歌舞伎や映画、役者にまで及び、さらに様々な著名な人物との個人的な交流までが披瀝されます。学生身分で読んだときは（実は今も）知らない名前や著作が多々登場し、いったいどうやらこれだけの量の書物に精通することができるのか、昔の大学生というのはこれほど勉強するものなのか、と圧倒されました。そのすごさは巻末の人名索引と作品名索引を見るだけでわかります。

インターネットで誰でも容易に情報にアクセスできる現在と異なり、以前は何でも知っている人物を指して「生き字引」のように形容することがありました。このように該博な知識を有することはかつて教養主義と批判されたこともあります（実際林は大正教養主義を継承する、百科全書派などとも呼ばれることもあります）、広く深く自分のものとしている場合には批判される要素は見当たりません。現在はスマホやツイッター、SNSなどの影響で200字以上の文章になるとなかなか読んでももらえないそうです。そのような中で一度はこのような浩瀚な著作を読破することに挑戦してほしいと思います。「一生勉強が続く」という言葉の意味を実感できると思います。

事務局 教務課 はせがわ いくみ
長谷川 育実

『喜嶋先生の静かな世界 The Silent World of Dr. Kishima』

森博嗣著

講談社文庫（2013年）

この本は、著者である森博嗣さんの自伝的小説といわれています。大人になった主人公 橋場君が、喜嶋先生との出会いを中心に、これまでの人生を振り返るというストーリー展開です。喜嶋先生は理系学部大学の助手として登場するため、物語の多くは主人公の学部・大学院時代の描写となっています。学生の皆さん、また教職員の方々にも、共感していただける部分が多いのではないかと思います、こちらをお薦めの一冊としました。



主人公の橋場君は、入試を突破し希望した大学へ進学しますが、単調な授業や生活に徐々に失望してしまいます。そんな中迎えた4年生の研究室配属。選考がないからという理由で、とある研究室を選んだ橋場君ですが、この研究室での喜嶋先生との出会いをきっかけに、研究の楽しさを知り、没頭していきます。その後の橋場君がどのように過ごしていくのかは、ぜひご自身で確認していただければと思います。

主人公の学生時代がリアルに描写されており、お芝居や映画のような劇的な展開はありません。ですが、新たな生活への期待や失望、好きなものに一心に取り組む楽しさなど、誰もが経験したことがあるであろう出来事や心情が描かれており、自分と重ねながら読むことができる本だと思います。読み終わった後には、何かを学ぶことが楽しく・魅力的に見えてくるかもしれません。

私は社会人になってから、この本に出会いました。学生の頃に読んでいたなら、もう少し充実した学生生活を送ろうと努力したかも…と悔しく思います。勉強・研究・仕事の合間のひと時に、一度手にとっていただければ嬉しいです。

授業評価委員会

本学では、授業の改善を目的とした学生による授業評価を前期と後期の年2回実施しています。授業評価の方法として、2002年度から「授業アンケート」を行い、2009年度以降、全学生を対象に実施しています。アンケートはFormsを利用して各講義科目の担当教員（専任教員及び非常勤講師）ごとに実施しています。

2022年度の授業では1年次生は原則全て対面授業、2～6年次生は対面授業と同時配信授業を隔週で行うハイブリッド型授業及びオンデマンド授業で実施し、学年や科目によって異なる授業形態のアンケート実施となりました。

本アンケートの集計結果を受けて、学生の意見に対するフィードバックのために「リフレクション・ペーパー」を作成しています。全教員のリフレクション・ペーパーは冊子体にして図書館で公開し、閲覧ができるようにしています。これにより、今後の授業改善が積極的に進み、教員及び学生にとって有意義な授業が実施されることを期待します。

2022年度授業評価の集計結果と解析結果の概要を以下の通り報告します。

「学生自身の授業で学ぶ態度」と「教員の授業に関する項目」について別々に評価をしてもらいました。

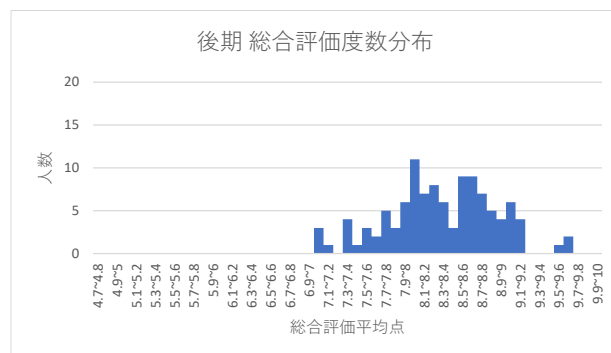
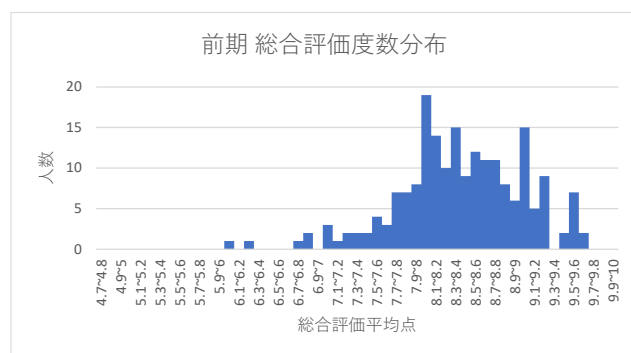
◇「学生自身の授業で学ぶ態度」

設問	前期評価	後期評価
Q1 予習・復習などの授業外学習を十分に行い、この授業に対して意欲的に取り組んだ。	3.98	4.02
Q2 授業の到達目標を達成できた。	4.06	4.02
Q3 授業で学んだことを、他の授業の内容（今までに学んできたこと、他の科目など）と関連付けながら理解することができた。	4.15	4.09
Q4 授業で学んだことで興味・関心が高まり、これからより深く学びたいと思った。	4.20	4.12

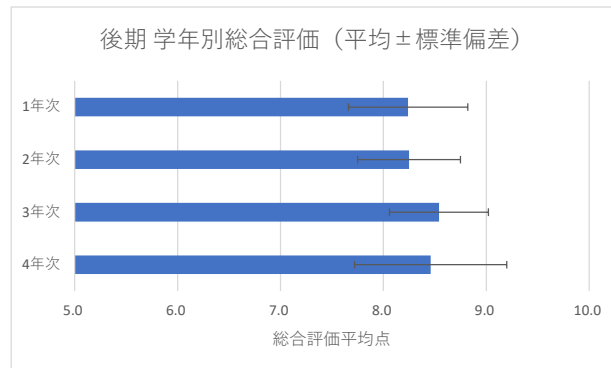
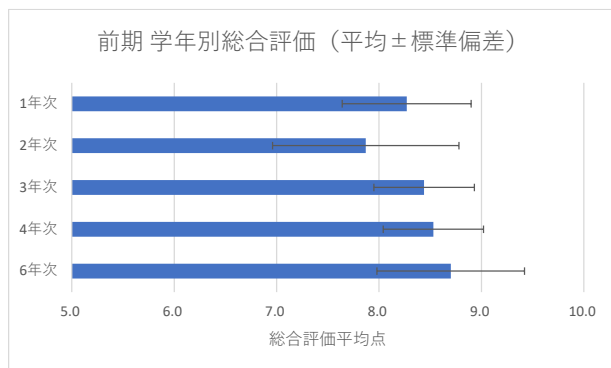
(5段階評価)

◇教員の授業に関する項目

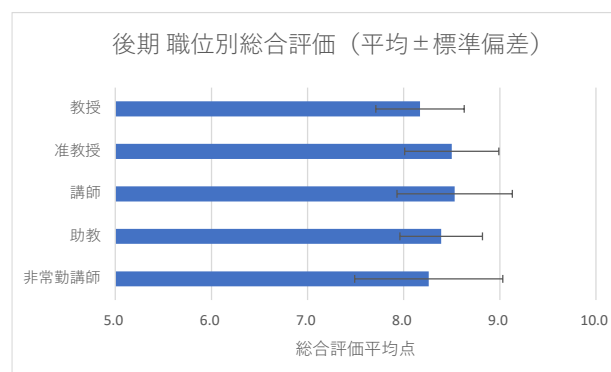
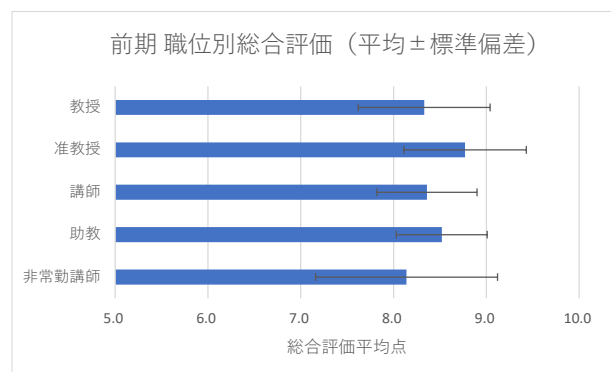
1) 総合評価の分布



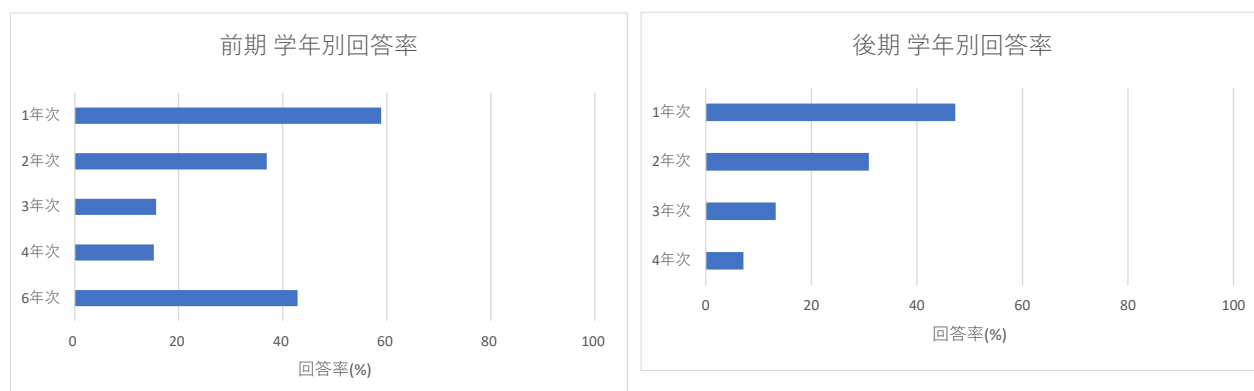
2) 学年別の総合評価平均点



3) 職位別の総合評価平均点



4) 学年別のアンケート回答率



最後に、授業アンケートに協力頂いた学生みなさんに感謝するとともに、今後の授業改善のために、アンケート回答率の更なる向上を目指します。授業アンケートは今後も継続して実施しますので、回答へのご協力をお願いします。

また、評価対象となった教員におかれましては、アンケート結果を参考にされ、更なる授業改善に役立てていただければ幸いです。



2023年度試験日程について

教務課

2023年度試験日程については下表のとおりです。

シラバスをよく読み、各学年とも進級・卒業要件を確認して受験してください。再試験の受験手続きはWebで行います。必ず指定の期間に手続きを行ってください。

「人と文化」選択科目の不合格科目については、再試験手続きをしなかった場合、放棄とみなします。放棄した科目は、履修した年度内は平均点に算入されますが、翌年度以降は平均点の算出対象外となります。

Webシラバス内にある「学修の手引き」には、試験制度の詳細や受験にあたっての心得が掲載されていますので、よく読んでください。

なお、スケジュールは変更になる可能性がありますので、最新情報はmanabaでご確認ください。

試験	試験期間	受験手続日	合格発表	
2023年				
1～4,6年次生 前期試験	7月19日(水)～7月28日(金)	－	8月9日(水)～9月2日(土) Webによる公開	前期終了時の 成績通知書は 10月下旬に保証人へ 送付予定
2～4年次生 前年次科目再試験	8月28日(月)～8月31日(木)	4月14日(金)～4月16日(日)	10月2日(月)～10月10日(火) 成績通知書配付予定・Webによる公開	
6年次生 前期再試験Ⅰ	8月28日(月)～8月31日(木)	8月9日(水)～8月17日(木)	9月8日(金)～9月13日(水) Webによる公開	
1～4年次生 前期科目再試験	9月4日(月)～9月8日(金)	8月9日(水)～8月17日(木)	10月2日(月)～10月10日(火) 成績通知書配付予定・Webによる公開	
6年次生 前期再試験Ⅱ	9月14日(木)・9月15日(金)	9月8日(金)～9月10日(日)	10月 4日(水)～10月11日(水) 成績通知書配付予定・Webによる公開	
4年次生 薬学共用試験 OSCE本試験	12月9日(土)・12月10日(日)	－	発表方法についてはmanabaで通知します	
2024年				
6年次生 アドバンス薬学本試験	1月10日(水)・1月11日(木)	－	1月16日(火)～ Webによる公開	後期終了時の 成績通知書は 4月中旬～下旬に 保証人へ送付予定
4年次生 後期試験	1月11日(木)～1月15日(月)	－	1月24日(水)～ Webによる公開	
1～3年次生 後期試験	1月15日(月)～1月23日(火)	－	2月2日(金)～ Webによる公開	
4年次生 薬学共用試験 CBT本試験	1月18日(木)・1月19日(金) ※教務課より指定のいずれか1日を受験	－	発表方法についてはmanabaで通知します	
6年次生 アドバンス薬学再試験	1月25日(木)・1月26日(金)	1月16日(火)～1月18日(木)	卒業査定会終了後 2月14日(水)～ Webによる公開	後期終了時の 成績通知書は 4月中旬～下旬に 保証人へ送付予定
4年次生 後期科目再試験Ⅰ	2月5日(月)～2月7日(水)	1月24日(水)～1月28日(日)	2月16日(金)～ Webによる公開	
1～3年次生 後期科目再試験	2月22日(木)～3月1日(金)	2月2日(金)～2月4日(日)	進級査定会終了後 3月15日(金)～ 成績通知書配付予定・Webによる公開	
4年次生 前期・後期科目再試験Ⅱ	2月22日(木)～3月1日(金)	【前期科目】 1月24日(水)～1月28日(日) 【後期科目】 2月16日(金)～2月18日(日)	進級査定会終了後 3月15日(金)～ 成績通知書配付予定・Webによる公開	
4年次生 薬学共用試験 CBT追・再試験	3月5日(火)	発表・手続き方法についてはmanabaで通知します		
4年次生 薬学共用試験 OSCE追・再試験	3月7日(木)	発表・手続き方法についてはmanabaで通知します		

大学基準協会による大学評価（認証評価）において適合認定を受けました

Report

企画・広報課

京都薬科大学は、公益財団法人 大学基準協会による2022年度大学評価（認証評価）の結果、大学基準に適合していると認定されました（認定期間：2023年4月1日～2030年3月31日）。

国公立全ての大学は、学校教育法に基づき7年以内に1回、文部科学大臣の認証を受けた評価機関（認証評価機関）による第三者評価（認証評価）を受けることが義務付けられています。本学においても、学部・研究科等を含む大学全体の改善を継続的にを行うことを目的に、認証評価機関である大学基準協会の実施する認証評価を受審しています。

2018年度から大学基準協会の認証評価制度は「第3期」のステージに移行し、点検評価項目の改革が行われ、特に「内部質保証システム」の有効性や自己改善機能を重視した評価となりました。本学は、この第3期の認証評価受審に向けて、自己点検・評価運営委員会を中心に、2021年度に約1年間をかけて「点検・評価報告書」を作成し、必要資料等を添えて評価申請を行いました。その後、2022年4月から書類審査・訪問調査等を経て、2023年3月に「大学基準協会の大学基準に適合している」との認定評価を得ました。

本評価結果において示された改善課題等については、今後、継続して改善を進めていくとともに、高い評価を受けた事項についてもさらなる向上を目指し取り組んでまいります。

※点検・評価報告書および評価結果は本学公式Webサイト、大学基準協会ホームページにてご覧いただけます。



薬学教育評価において適合認定を受けました

Report

企画・広報課

京都薬科大学は、一般社団法人 薬学教育評価機構による2022年度薬学教育評価の結果、評価基準に適合していると認定されました（認定期間：2023年4月1日～2030年3月31日）。

本学では、2006年度からスタートした学部6年制薬学教育プログラムの改善を継続的にを行うことを目的に、薬学教育評価機構の実施する薬学教育評価を7年ごとに受審しています。2009年度に、同機構が定めた「薬学教育（6年制）第三者評価 評価基準—平成19年度版」に基づき「自己評価21」を実施し、2014年度に同機構の「薬学教育評価（第三者評価）」を受審し、適合認定を受けました。その後、第2期評価を2021年度に受審する予定でしたが、COVID-19禍により、同機構の実施する評価が1年後ろ倒しとなったため、2022年度に第2期評価を受審することとなりました。

評価受審に向け、本学では自己点検・評価運営委員会を中心に、2021年度に約1年間をかけて、本学の6年制薬学教育プログラムの自己点検・評価を行い、「自己点検・評価書」を作成し、必要資料等を添えて評価申請を行いました。その後、2022年4月から書類審査・オンラインによる訪問調査等を経て、2023年3月に「京都薬科大学薬学部（6年制薬学教育プログラム）は、薬学教育評価機構が定める『薬学教育評価 評価基準』に適合している」との認定評価を得ました。

本評価結果において示された改善すべき点および助言については、今後、継続して改善を進めていくとともに、高い評価を受けた事項についてもさらなる向上を目指し取り組んでまいります。

※自己点検・評価書および評価結果は本学公式Webサイト、薬学教育評価機構ホームページにてご覧いただけます。



■2023年度生涯研修プログラム「漢方講座」および「eラーニング講座」申込受付について

◇「漢方講座」漢方治療の臨床力を身につけよう

京都漢方研究会との共催で、漢方治療の基礎から臨床まで4回コースで学びます。漢方の知識や経験のない薬剤師にも理解しやすいプログラムですので、一から漢方を学びたい方にもお勧めします。

＊日程：2023年9月10日(日)、10月8日(日)、11月12日(日)、12月17日(日)10:00～16:00

＊場所：京都薬科大学愛学館3階 A31講義室 及び オンライン配信

＊定員：100名 ＊参加費：20,500円(受講料 20,000円、事務手数料 500円)

＊申込受付期間：2023年7月12日(水)～8月28日(月)

＊申込方法：生涯教育センターWebサイト (<https://skc-kyoto-phu.ac.jp/>) よりお申込みください。

開催日	10:00～11:40【基礎】	12:30～14:10【薬物】	14:20～16:00【臨床】
2023年 9月10日 (日)	セルフメディケーション領域の漢方 ーめまいー 末広薬局 京都漢方研究会 理事 高橋 宏和 先生	健康管理を担う薬剤師のための漢方講座 近畿大学法人大本部社会連携推進センター 講師 日置 智津子 先生	眼科領域における漢方の役割 ～緑内障・ドライアイ・眼底出血を中心に～ 山本眼科～東洋医学研究所～ 院長 山本 昇伯 先生
2023年 10月8日 (日)	セルフメディケーション領域の漢方 ー排尿異常ー 末広薬局 京都漢方研究会 理事 高橋 宏和 先生	認知機能の維持・改善に有効な生薬・漢方薬 について 富山大学和漢医薬学総合研究所 教授 東田 千尋 先生	効かせる漢方(女性のQOLを高めるために)(2) かげやま医院 院長 薩山 充 先生
2023年 11月12日 (日)	セルフメディケーション領域の漢方 ー胃腸障害①(食欲不振・胸焼け)ー 末広薬局 京都漢方研究会 理事 高橋 宏和 先生	生薬の選品と鑑別(4) 株式会社栃本天海堂 東京営業所 所長 宮嶋 雅也 先生	フレイル・サルコペニアと循環器領域の漢方 新神戸きたむら内科 循環器・漢方クリニック 院長 北村 順 先生
2023年 12月17日 (日)	セルフメディケーション領域の漢方 ー胃腸障害②(胃痛・腹痛)ー 末広薬局 京都漢方研究会 理事 高橋 宏和 先生	知っておきたい漢方配合生薬(その3) 京都漢方研究会 理事長 京都薬科大学 名誉教授 松田 久司 先生	本音で語る! アトピー性皮膚炎治療における漢方 の実力・臨床力・癒し力 兵庫医科大学病院皮膚科 教授/外来医長 夏秋 優 先生

※会場等に変更が生じる可能性がありますので、最新情報、詳細は必ずホームページ
(<https://skc.kyoto-phu.ac.jp/program/index.php?pid=84>) をご確認ください。

◇「eラーニング講座」 ※配信開始しています。配信期間中いつでもお申込みいただけます。

2023年度卒後教育講座および2023年度漢方講座を開催時に収録し、新規コンテンツとして順次追加します。
2022年度卒後教育講座および2022年度漢方講座コンテンツは、6月より配信しています。

対面での研修会に代わる受講や理解度に合わせた学習にご活用ください。

＊配信期間：2023年6月1日(木)～2024年2月29日(木)

＊参加費：15,500円(受講料 15,000円、事務手数料 500円)

＊認定単位：G24 計48単位配信予定(1単位/演題)

＊申込受付期間：2023年4月1日(土)～2024年2月22日(木)

＊申込方法：生涯教育センターWebサイト (<https://skc-kyoto-phu.ac.jp/>) よりお申込みください。

●本学の学生・職員は、2023年度漢方講座および2023年度eラーニング講座を無料で受講できます。受講希望者は、実務・生涯教育課までメールでご連絡ください。詳しくは、manaba掲示板(各年次コースのコンテンツ)＞授業関連＞2023年度生涯研修プログラム)でご確認ください。皆さんの参加をお待ちしています。

■問合せ先

京都薬科大学 事務局 実務・生涯教育課

＊E-mail：s-center@mb.kyoto-phu.ac.jp

＊TEL：075-595-4677 (平日10:00～16:00)

＊FAX：075-595-4792



生涯教育センター
トップページ



2023漢方講座
申込ページ



2023 eラーニング
申込ページ

1. 入学定員・募集人員

学部	学科	入学定員
薬学部	薬学科	360名

2. 募集人員・出願資格

	学校推薦型選抜		一般選抜		
	指定校制	一般公募制	一般A方式 (共通テスト前期)	一般B方式 (本学独自)	一般C方式 (共通テスト後期)
募集人員	50名	90名	45名	170名	5名
出願資格	高等学校長へ通知	2024年3月卒業見込者及び 2023年3月卒業生 ^{※1} で、 学習成績の状況3.2以上。	2024年3月卒業見込者及び既卒者		

※1 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を2023年3月に修了した者、及び2023年4月以降2024年3月末までに修了または修了見込の者を含む。

3. 選抜日程等

	学校推薦型選抜		一般選抜		
	指定校制	一般公募制	一般A方式 (共通テスト前期)	一般B方式 (本学独自)	一般C方式 (共通テスト後期)
出願期間	2023年11月1日(水) ～ 2023年11月8日(水) 必着	2023年11月1日(水) ～ 2023年11月8日(水) 当日消印有効	2024年1月5日(金) ～2024年1月12日(金) 当日消印有効	2024年1月5日(金) ～2024年1月19日(金) 当日消印有効	2024年2月20日(火) ～2024年3月5日(火) 当日消印有効
試験日	2023年11月13日(月)	2023年11月18日(土)	2024年1月13日(土) 2024年1月14日(日)	2024年2月3日(土)	2024年1月13日(土) 2024年1月14日(日)
合格発表日	2023年12月1日(金)		2024年2月16日(金)		2024年3月14日(木)
入学手続 期限	2023年12月8日(金) 必着 入学金・授業料(前期分)納付期限 入学手続書類等提出期限		2024年2月22日(木) 入学金納付期限		2024年3月21日(木) 入学金納付期限
	2024年3月21日(木) 必着 授業料(前期分)納付期限 入学手続書類等提出期限				

4. 検査・試験項目等

学校推薦型選抜（指定校制）
面接・調査書を基に総合的に判定する。
試験場：京都薬科大学キャンパス

学校推薦型選抜（一般公募制）	配点
適性検査Ⅰ：英語 [コミュニケーション英語Ⅰ, コミュニケーション英語Ⅱ, コミュニケーション英語Ⅲ, 英語表現Ⅰ, 英語表現Ⅱ]	100
適性検査Ⅱ：化学 [化学基礎, 化学]	100
面接	40
調査書 (国語と数学の学習成績の状況の合計×2)	20
ただし、一定基準に達しない検査項目があれば、不合格になることがある。	
試験場：京都薬科大学キャンパス	

一般選抜A方式（共通テスト前期）		配点
数学	数学Ⅰ・数学A, 数学Ⅱ・数学B	200
外国語	英語	200 ^{※2}
国語	国語 [近代以降の文章のみ]	100
理科	化学 [必須], 物理・生物から1科目 [選択]	200
試験場：大学入試センターが指定（個別試験はなし）		

※2 リーディングとリスニングの合計点を200点満点に換算し素点とする。
(リーディング160点満点、リスニング40点満点)

一般選抜B方式		配点
数学	数学Ⅰ, 数学Ⅱ, 数学A, 数学B [数列, ベクトル]	200
外国語	英語 [コミュニケーション英語Ⅰ, コミュニケーション英語Ⅱ, コミュニケーション英語Ⅲ, 英語表現Ⅰ, 英語表現Ⅱ]	200
理科	化学基礎, 化学	200
試験場：(京都会場) 京都薬科大学キャンパス (大阪会場) TKP新大阪駅前カンファレンスセンター・大阪国際交流センター		

一般選抜C方式（共通テスト後期）		配点
理科	化学	100
数学	数学Ⅰ・数学A, 数学Ⅱ・数学B	100 ^{※3}
調査書		15 ^{※4}
志望理由書		15
試験場：大学入試センターが指定（個別試験はなし）		

※3 200点満点を100点満点に換算し素点とする。

※4 学習成績の状況×3（小数点以下第1位を四捨五入）を素点とする。

問合せ先：〒607-8414 京都府京都市山科区御陵中内町5 京都薬科大学 入試課
TEL (075)595-4678 / FAX (075)583-2232 / HP <https://www.kyoto-phu.ac.jp/>

2023年4月

	薬学専攻 博士課程(4年制)	薬科学専攻 博士後期課程(3年制)	備 考
募集人員	(一般入試、社会人入試) 10名	(一般入試、社会人入試) 2名	
募集分野等	(募集分野等、協力分野等) 22分野等	(募集分野等、協力分野等) 14分野等	協力分野においても研究指導を受ける事ができる
出願資格	(1) 大学(6年制薬学部)を卒業した者(2024年3月末日までに卒業見込者を含む) (2) 外国において学校教育における18年の課程(最終の課程は薬学)を修了した者(2024年3月末日までに修了見込者を含む) (3) 大学(4年制薬学部)を卒業後、社会人として大学、官公庁、企業又は病院等において2年以上の実務経験を有し、かつ、薬剤師免許を有している者で、本学大学院における入学資格審査において、第1号の者と同等以上の学力があると認めた者 (4) 本学大学院において、個別の入学資格審査により、第1号の者と同等以上の学力があると認めた者	(1) 薬学系(薬学、臨床薬学又は薬科学)又は理科系の修士の学位を有する者(2024年3月末日までに当該学位取得見込者を含む) (2) 外国において前号と同等の修士の学位に相当する学位を有する者(2024年3月末日までに当該学位取得見込者を含む) (3) 大学卒業後、出願時に社会人として大学、官公庁、企業又は病院等において2年以上研究に従事した者で、当該研究の成果等により、本学大学院における入学資格審査において、第1号と同等の修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者 (4) 本学大学院において、個別の入学資格審査により、第1号と同等の修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者	<薬学専攻> 募集分野等 薬品製造学分野、薬品分析学分野 代謝分析学分野、衛生化学分野 微生物・感染制御学分野、細胞生物学分野 生化学分野、病態生理学分野 病態生化学分野、薬物治療学分野 臨床薬理学分野、薬理学分野 臨床腫瘍学分野、薬剤学分野 臨床薬学分野 臨床薬剤疫学分野、シナジーラボ (協力分野等) 薬化学分野、薬品化学分野 生薬学分野、薬品物理化学分野 放射性同位元素研究センター <薬科学専攻> 募集分野等 薬化学分野、薬品化学分野 生薬学分野、薬品物理化学分野 放射性同位元素研究センター (協力分野等) 薬品製造学分野、薬品分析学分野 代謝分析学分野、細胞生物学分野 生化学分野、病態生理学分野 薬理学分野、薬剤学分野、シナジーラボ
主な出願書類	(1) 入学願書 (2) 成績証明書 ^{*1} (3) 卒業論文及び卒業論文の要旨(英文可) ^{*2} (4) 志願者名票・受験票 (5) 出願資格(3)の者は薬剤師免許の写し (6) 卒業・修了(見込)証明書 ^{*1} (7) 出願資格(2)の者は住民票 ^{*3}	(1) 入学願書 (2) 成績証明書 ^{*1} (3) 修士論文及び修士論文の要旨(英文可) ^{*2} (4) 志願者名票・受験票 (5) 研究業績録 (6) 修了(見込)証明書 ^{*1} (7) 出願資格(2)の者は住民票 ^{*3}	※1 本学卒業・修了(見込)者を除く ※2 卒業・修了見込者は卒業研究の概要(2,000字以内)1部(英文可) ※3 学術交流協定大学の卒業(見込)者は大学長等の正式な推薦状で代用可能(任意)。その場合は、入学手続き時に住民票の提出を求める。
関係日程	出願期間	(夏季募集) 2023年7月3日(月) ～ 2023年7月14日(金) [必着] (冬季募集) 2024年1月9日(火) ～ 2024年1月16日(火) [必着]	
	試験日	(夏季募集) 2023年8月22日(火) (冬季募集) 2024年1月24日(水)	
	合格発表日	(夏季募集) 2023年8月28日(月) (冬季募集) 2024年1月25日(木)	
	入学手続期限	2024年3月7日(木) 入学金納付期限 授業料前期分納付期限, 入学手続書類提出期限	
選考	面接試験	専攻に必要な研究能力について、卒業論文またはそれに相当する研究業績のプレゼンテーションを中心に行う。 専攻に必要な研究能力について、修士論文またはそれに相当する研究業績のプレゼンテーションを中心に行う。	

★出願に関する問い合わせ先

事務局入試課 〒607-8414 京都市山科区御陵中内町5 TEL075-595-4678

※最新の情報は右記QRコード(本学ホームページ)よりご確認をお願いします。

https://www.kyoto-phu.ac.jp/exam_information/



		一 般 入 試	社 会 人 入 試	備 考
募集人員	5 名			(募集分野等)
		若干名	若干名	薬化学分野、薬品製造学分野
募集分野等		薬科学専攻 15分野等	薬科学専攻 15分野等	薬品化学分野、生薬学分野 薬品分析学分野、代謝分析学分野 薬品物理化学分野 細胞生物学分野、生化学分野 病態生理学分野、薬理学分野 薬剤学分野、シナジーラボ 放射性同位元素研究センター 共同利用機器センター
出願資格		(1) 大学を卒業した者(2024年3月末日までに卒業見込者を含む) (2) 2024年3月末日において大学に3年以上在学し、所定の単位を優れた成績をもって修得したと認められる者 (3) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者(2024年3月末日までに修了見込者を含む) (4) 本学大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者	大学卒業後、出願時に社会人として大学、官公庁、企業又は病院等において1年以上の実務経験を有する者	
主な出願書類		(1) 入学願書 (2) 成績証明書 ^{※1} (3) 志願理由書 (4) 志願者名票・受験票 (5) 出願資格(3)の者は住民票 ^{※2} (6) 卒業(見込)証明書 ^{※1}	(1) 入学願書 (2) 成績証明書 ^{※1} (3) 志願理由書 (4) 志願者名票・受験票 (5) 実務実績書 (6) 卒業証明書 ^{※1}	※1 本学卒業・修了(見込)者を除く ※2 学術交流協定大学の卒業(見込)者は大学長等の正式な推薦状で代用可能(任意)。その場合は、入学手続き時に住民票の提出を求める。
関係日程	出願期間	(夏季募集) 2023年7月3日(月)～2023年7月14日(金) [必着] (冬季募集) 2024年1月17日(水)～2024年1月24日(水) [必着]		
	試験日	(夏季募集) 2023年8月22日(火) (冬季募集) 2024年2月9日(金)		
	合格発表日	(夏季募集) 2023年8月28日(月) (冬季募集) 2024年2月16日(金)		
	入学手続期限	2024年3月7日(木)入学金納付期限 授業料前期分納付期限, 入学手続書類提出期限		
試験科目	外国語(英語)	4問題から2問題を選択解答 40点(20点×2)	—————	
	薬学専門	I～VI系*の15問題から2問題を選択解答 40点(20点×2問題)		* I系 創薬科学系 薬化学分野、薬品製造学分野 薬品化学分野、生薬学分野 II系 分析薬科学系 薬品分析学分野、代謝分析学分野 薬品物理化学分野 III系 生命薬科学系 細胞生物学分野 生化学分野、病態生理学分野 IV系 病態薬科学系 薬理学分野 V系 医療薬科学系 薬剤学分野 VI系 統合薬科学研究施設 シナジーラボ 放射性同位元素研究センター 共同利用機器センター
	小論文他	—————	小論文(一般)小論文(専門)の2課題 成績証明書	
	面接試問	志願理由書を参考に試問	志願理由書・実務実績書を参考に試問	【学識、説明能力、自覚・意欲】

★出願に関する問い合わせ先

事務局入試課 〒607-8414 京都市山科区御陵中内町5 TEL075-595-4678

※最新の情報は右記QRコード(本学ホームページ)よりご確認をお願いします。

https://www.kyoto-phu.ac.jp/exam_information/

■ 変化に対応していくこと

2023年度が始まり、約3か月が経とうとしています。5月には新型コロナウイルス感染症が2類相当から5類と位置付けられたことに伴い、今年度初頭から学内にも社会全体にも様々な変化がありました。

学内で言えば、原則的にどの学年も全面対面にて講義を受けられるようになりました。また、座席指定はなくなり、どの座席に座ってもよいということになりました。昨年度までは、感染対策に伴う収容人数の制限があり、かつ座席指定があったため、人と人との距離の近さに圧迫感や、昨年までとは違う雰囲気に着かなさ等を感じる人もいたかもしれません。

また、桜の季節を迎える頃には、京都にいよいよ観光客の姿が戻ってきていました。人や車があふれ、お店の前には行列ができ、町中が活気づいています。飲食店においても、アクリル板等は一部残ってはいますが、取り外されつつある昨今です。

2020年度からついこの間まで、数度の緊急事態宣言が発令され、COVID-19の新規感染者数が毎日大きく報道される中、日々自粛生活が要請されていました。そして、私たちはそんな社会の動向に敏感にならざるを得ず、必死にその状況に適応しようと頑張っていました。そこからの急激な変化が起きている訳ですから、いざ、「どんどん外に出て、人と対面で交流してください」といった生活スタイルにすんなりとなじめる人ばかりではないでしょう。マスクの着脱についても言えることですが、一度身についた習慣を脱習慣化することには非常に困難を伴います。

オンライン授業を活用する期間において、コロナ禍前の「通うことが当たり前だった習慣」から、「通わない習慣」が身についてしまい、大学から足が遠のいてしまった人もいたでしょう。比較的自宅で過ごす時間が増えたことで、規則正しく大学に通学する生活に

戻ろうとしているけれど、なかなか難しいと感じている人もいたかもしれません。

そんなとき、例えば、大学内の友人関係、教職員との関係、落ち着ける居場所等の心理的、物理的つながりが維持できていると比較的すんなりと元の生活に戻っていけると思いますが、反対に、そういったつながりがコロナ禍を通じて、作ることができていなかったり、希薄になってしまっていたりする場合には、大学に足を向ける生活を迫られたとしても、こころも身体もすぐ適応できないことがあると思います。

コロナ禍において重ねていた習慣について見つめなおし、もしもその習慣が次なる生活への適応を妨げているものなら、自分自身を少しずつ変化させる必要があります。

学生のみなさんは、もし自分の力だけでは難しいと感じる時は、ぜひ学生相談室にご相談ください。助力を求めるのはとても難しいことかもしれませんが、一人で考えているだけだと出てこないような打開策が見えてくる場合があります。

また、学生たちを取り巻く周囲の大人は、「環境の変化に合わせるのが当たり前、できて当然」だと思わず、関わっているそれぞれの方の抱えている事情を理解することに努めながら、可能な限りぜひサポートしていただきたいと思います。助力を求めるにあたっては、自主的に動きづらい場合、周囲からの働きかけが必要かつ有効な場合も多々あります。学生相談室では、保証人や教職員の方々からの相談も受け付けております。ぜひご活用ください。

(臨床心理士 上野みな子)

■ 学生相談室のご案内

学生生活の中で問題や悩みに出くわしたとき、独りで抱え込むのではなく気軽に相談室をご利用ください。相談は臨床心理士が担当し、学業、進路、課外活動、将来、対人関係、性格、家族、心身の健康についてなど、事の大小に関わらず学生生活に関わる様々な悩みや問題について幅広い相談をお受けしています。学生ご本人だけでなく、保証人や教職員の方からの相談も可能です。

● 相談申込み・問合せ先

学生相談室 育心館4階

相談を希望される方は下記申し込みフォームまたはメールにて予約をお願いいたします。相談は無料です。なお、対面相談のほか、オンライン相談（電話またはTeamsの音声通話）も実施しております。相談方法につきましてはカウンセラーにご相談下さい。その他詳細はお問合せ下さい。

- ・開室（受付）時間：月～金 8:45～17:15
- ・学生相談室メール：gakusou@mb.kyoto-phu.ac.jp
- ・電話：075-595-4672（建部） / 075-595-4686（上野）



申し込みフォーム
QRコード

本学研究者の研究資金には、大学から配当される研究費のほか、国などから助成される公的研究費（私学助成金を含む。）、公益財団法人や企業からの研究助成寄付金、共同研究・受託研究契約に基づく企業からの研究費などがあります。

公的研究費は、文部科学省をはじめ厚生労働省、日本医療研究開発機構（AMED）などから助成されていますが、その中でも大きな割合を占めるのが、文部科学省所管の「科学研究費助成事業」（略して「科研費」）です。科研費の募集枠は金額によって分類されていて、個人で申請するものや複数の研究者で申請す

るものがあります。また、1人の研究者があまり多くの枠に申請できないように制限も設けられています。

下表には代表者のみ記載していて、分担者として共同研究をしている場合は含まれていません。令和5年度は、新規で33件申請して14件が採択されました（新規採択率42.4%）。合計採択件数は49件、令和5年度交付予定総額は106,860千円となっています。

なお、特別研究員奨励費は下表には記載していません。挑戦的研究（萌芽）は現在申請中です。

研究種目	研究代表者	分野名	課題番号	課題名	交付額 (千円)	新規・ 継続
学術変革領域研究(B)	長尾 耕治郎	薬品物理化学	23H03857	膜脂質による細胞応答のしなやかさ制御	12,350	新規
新学術領域研究 (研究領域提案型)	石原 慶一	病態生化学	22H04822	ダウン症知的障害における初期エンドソーム破綻と銅蓄積	3,250	継続
基盤研究(B)	中村 誠宏	生薬学	23H02642	薬用植物由来酵素を活用した擬天然物の構築と膠芽腫治療薬開発への展開	7,020	新規
基盤研究(B)	大石 真也	薬品化学	22H02747	鏡像型タンパク質の特性を活かした創薬スキャフォールドの創製と応用	4,160	継続
基盤研究(B)	小林 祐輔	薬化学	22H02748	次世代ペプチド創薬の基盤となる分子技術の開発	2,600	継続
基盤研究(B)	関根 勇一	細胞生物学	22H03544	機能性食品成分による中枢神経再生調節についての研究	5,070	継続
基盤研究(B)	勝見 英正	薬剤学	22H03960	中分子医薬品の腎臓標的化DDSの開発による腎臓疾患治療法の開発	5,070	継続
基盤研究(B)	古田 巧	薬化学	21H02611	カルコゲン結合で構造制御する分子認識型触媒の創製	4,160	継続
基盤研究(B)	異島 優	薬剤学	21H02645	内因的アルブミン輸送システムの理解に基づく革新的アルブミンDDSキャリアの構築	5,720	継続
基盤研究(B)	松本 崇宏	公衆衛生学	20H03397	がん化学療法抵抗性改善機能に基づく天然由来新規医薬品シーズの開拓	3,380	継続
基盤研究(B)	高田 和幸	シナジーラボ	20H03569	脳内免疫環境変化の解析によるアルツハイマー病の病態解明と治療への応用	3,640	継続
基盤研究(C)	小林 数也	薬品化学	23K06058	アルツハイマー病予防・治療への展開を指向した新規大環状BACE1阻害剤の開発	1,430	新規
基盤研究(C)	高山 健太郎	衛生化学	23K06059	マイオスタチンとアクチビンのデュアル阻害に基づく先端的な骨格筋増強ペプチドの創出	1,430	新規
基盤研究(C)	田中 智之	薬理学	23K06122	マスト細胞によるIL-10産生の制御機構およびその作用の解明	1,170	新規
基盤研究(C)	秋葉 聡	病態生化学	23K06157	高脂肪食負荷解除下での肝線維化修復促進を狙ったIⅴA型PLA2の細胞種特異的制御	1,690	新規
基盤研究(C)	加藤 伸一	薬物治療学	23K06158	Ca ²⁺ 高透過性TRPV6の腸上皮バリア機能制御における役割解明	1,170	新規
基盤研究(C)	河下 映里	病態生化学	23K06176	細胞外プロテアーゼ活性制御による新生児低酸素性虚血性脳症の神経再生療法の高効率化	1,430	新規
基盤研究(C)	柴田 敏之	薬物動態学	23K06224	SGLT2阻害剤ダバグリフロジンの慢性心不全に対する有効性に関する研究	1,170	新規
基盤研究(C)	森下 将輝	薬剤学	23K06244	免疫誘導機能を搭載した善玉細菌由来細胞外小胞の経口接種による疾患発症予防法の開発	1,690	新規
基盤研究(C)	西口 工司	臨床薬学	23K06292	トリプルネガティブ乳癌におけるPARP阻害剤耐性化の克服を目指した新規機序の解明	1,170	新規
基盤研究(C)	戸田 侑紀	病態生理学	23K06620	肺前転移ニッチにおける乳酸アシドーシス発症因子の同定	1,560	新規
基盤研究(C)	中田 晋	臨床腫瘍学	23K06642	GGCT阻害によるNotch制御機構の解明と膠芽腫幹細胞を標的とする新規治療法の確立	1,820	新規
基盤研究(C)	田中 憲一	物理学	23K07118	BNCTの線量・線質の体内3次元分布の評価法—全身ファントム型蛍光体の開発—	3,380	新規
基盤研究(C)	岸野 良治	一般教育	22K00065	空海の遺志を継ぐ学僧たち：近世後期の「根本説一切有部律」宣揚運動	780	継続

基盤研究(C)	坂本 尚志	一般教育	22K00115	「最初のフーコー」の総合的研究－フランス国立図書館所蔵の未公開資料に基づく考察	1,430	継続
基盤研究(C)	斎藤 博幸	薬品物理化学	22K06556	アミロイド共存分子によるタンパク質凝集・線維化制御機構の解明	1,300	継続
基盤研究(C)	長澤 一樹	衛生化学	22K06590	抗がん剤のうつ病誘発リスクに関する基礎的および薬剤疫学的検証	1,040	継続
基盤研究(C)	齊藤 洋平	生化学	22K06621	熱ストレスによるがん悪性化シグナル活性化とその阻害効果	1,040	継続
基盤研究(C)	飯居 宏美	臨床腫瘍学	22K06756	GGCTとxCTのダブル阻害によりフェロトーシスを増強する全く新しいがん治療戦略	1,300	継続
基盤研究(C)	石原 慶一	病態生化学	22K07033	ダウン症胎生期脳発達遅滞のメカニズム解析と胎内治療の開発	1,300	継続
基盤研究(C)	村木 優一	臨床薬剤疫学	21K10290	基礎や臨床研究で得られた臨床上での有用性はリアルワールドデータで検証できるのか	520	継続
基盤研究(C)	渡辺 徹志	公衆衛生学	21K12271	大気粉塵の炎症反応誘発性と喘息発作の関係の解明	1,300	継続
基盤研究(C)	南部 寿則	薬品製造学	21K05048	イリド求核剤を用いるスピロシクロプロバンの開裂一環化反応による炭素環構築法の開発	1,040	継続
基盤研究(C)	長尾 耕治郎	薬品物理化学	21K05391	膜脂質リモデリングを介する細胞自律的な温度適応機構の解明	1,300	継続
基盤研究(C)	服部 恭尚	共同利用機器センター	21K05417	SARS 3CLプロテアーゼ阻害剤の高活性化と抗COVID-19薬への展開	780	継続
基盤研究(C)	佐藤 毅	一般教育	21K06038	Notch受容体機能の膜組成への依存性の解析とシグナリング機構の解明	780	継続
基盤研究(C)	浜田 翔平	薬化学	21K06487	ニトロキシル型触媒によるC-H酸化反応の開発	1,040	継続
基盤研究(C)	河嶋 秀和	放射性同位元素研究センター	21K06502	スカベンジャー受容体のイメージングに基づく生活習慣病および悪性腫瘍の評価	1,430	継続
基盤研究(C)	武上 茂彦	薬品分析学	21K06523	多粒子結合イオン液体ナノ粒子を用いた超高感度電気化学発光イムノアッセイ法の開発	1,430	継続
基盤研究(C)	鳥羽 裕恵	臨床薬理学	21K06606	貧血治療薬エリスロポエチンの動脈硬化抑制薬としてのドラッグ・リポジショニング研究	1,300	継続
基盤研究(C)	伊藤 由佳子	薬物動態学	21K06679	リキッドバイオプシーを活用する肺癌化学療法マネジメント実用化への展開	780	継続
基盤研究(C)	河淵 真治	薬物動態学	21K06720	がん化学療法施行時の悪心・嘔吐リスク予測システムの構築と戦略的制吐療法の確立	1,040	継続
基盤研究(C)	辻本 雅之	臨床薬学	21K06721	金属カチオン製剤によるロスバスタチン濃度低下メカニズムの解明と関連医薬品への応用	1,430	継続
基盤研究(C)	小原 幸	臨床薬理学	21K08141	細胞外ミトコンドリア放出を伝達ツールとした心不全病態悪化の検討及び治療への応用	1,170	継続
若手研究	木口 裕貴	薬品分析学	22K15268	次世代診断薬の開発を支援する効率的な高親和力変異抗体創製法の確立	2,210	継続
若手研究	冢瀬 諒	臨床薬剤疫学	22K17335	複数のリアルワールドデータを用いて制吐薬の適正使用に関する実態を評価できるのか	910	継続
若手研究	扇田 隆司	共同利用機器センター	21K15245	アミロイド凝集核を構成する異常型 α シヌクレインの構造特性の物理化学的解明	1,560	継続
若手研究	幸 龍三郎	生化学	21K15263	破綻したリン酸化シグナルを基盤としたがん細胞分裂によるがん進展機構の解明	1,430	継続
若手研究	安田 浩之	薬物治療学	21K15276	細胞外トラップの消化管炎症における役割解明	1,690	継続

News お知らせ

会計課

■ 学費口座振替開始に伴うお申込方法について

この度2023年度後期学費から口座振替（引き落とし）を開始しますので、お知らせいたします。
これに伴い、これまで納付書による納入をお願いしておりましたが、原則として口座振替での引き落としに変更させていただきます。

つきましては、下記の申込期間にお申し込みいただきますようよろしくお願いいたします。

なお、申込手続はすべてWeb上で完結することができ、一度お申込いただくと卒業まで口座振替が継続できます。

申込期間：2023年7月上旬～2023年8月上旬

申込方法：Web申込（本学ホームページの学費ページより）

※お申込方法の詳細は、右記QRコードから本学ホームページにアクセスし、
ご確認ください。



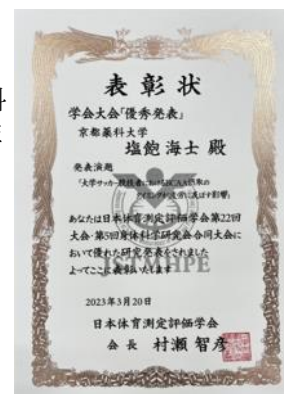
本学ホームページ

※本件については、別途郵送で手続の詳細をご案内させていただきます。

■ 健康科学分野の塩飽海士さんが日本体育測定評価学会第22回大会・第5回身体科学研究会 合同大会において優秀発表賞を受賞しました

2023年3月12日（日）に開催された日本体育測定評価学会第22回大会・第5回身体科学研究会 合同大会において、健康科学分野の塩飽海士さんが優秀発表賞を受賞しました。

受賞：健康科学分野 5年次生 塩飽 海士
演題：大学サッカー競技者におけるBCAA摂取のタイミングが疲労に及ぼす影響
演者：塩飽海士、棚橋嵩一郎、長澤吉則



■ 薬用植物園および生薬学分野が報告した学術論文が、学術誌Chemical and Pharmaceutical Bulletin の Featured article に選出されました

薬用植物園および生薬学分野が報告した学術論文が、学術誌Chemical and Pharmaceutical Bulletin の2023年5月号の Featured article に選出されました。

タイトル：Comparison of Growth in Hydrangea macrophylla var. thunbergii Grown in Different Soil pH and Quantitative Analysis of Its Sweetness-Related Constituents
著者名：Junko Tsukioka and Seikou Nakamura 掲載巻号：Chem. Pharm. Bull. 71, 368–373 (2023)

■ 日本薬学会第143年会において、本学の学生29名が学生優秀発表賞を受賞しました

2023年3月25日（土）～28日（火）に開催された「日本薬学会第143年会」において、本学の学生29名が学生優秀発表賞を受賞しました。

【学生優秀発表賞（口頭発表の部）】

受賞者：薬化学分野 博士課程1年次生 井上 拓美

演題：カルコゲン結合による配座制御ウレアの合成とその物性評価

演者：井上 拓美、太田 萌絵、中村 梨那、網島 唯、高橋 暖、笹森 貴裕、浜田 翔平、小林 祐輔、古田 巧

受賞者：代謝分析学分野 博士課程3年次生 近藤 悠斗

演題：銅触媒を用いた放射性ヨウ素標識反応と固相合成法を組み合わせたワンポット標識

演者：近藤 悠斗、木村 寛之、河嶋 秀和、服部 恭尚、安井 裕之

受賞者：公衆衛生学分野 博士課程3年次生 北川 翔大

演題：新規 Wnt/ β -catenin 経路阻害物質 linderapyrone の作用機序解明

演者：北川 翔大、松本 崇宏、渡辺 徹志

受賞者：細胞生物学分野 博士課程4年次生 山口 達生

演題：カポジ肉腫関連ヘルペスウイルスORF21はMEKのリン酸化を促進し、子孫ウイルスの感染性を高める

演者：山口 達生、渡部 匡史、祝迫 佑紀、藤室 雅弘

受賞者：生化学分野 博士課程2年次生 池田 有紀

演題：細胞分裂制御における脱SUMO化タンパク質DESI1の役割

演者：池田 有紀、幸 龍三郎、齊藤 洋平、中山 祐治

受賞者：薬物治療学分野、微生物・感染制御学分野 博士課程2年次生 山口 大貴

演題：近赤外発光による細菌性肺炎の生体内ライブイメージング

演者：山口 大貴、鴨志田 剛、山田 倫暉、川久保 駿、成田 晴香、奥田 絢音、森屋 亮平、北田 昇雄、岩野 智、牧 昌次郎、八尋 錦之助、加藤 伸一

受賞者：薬理学分野 博士課程3年次生 岡 真純

演 題：マスト細胞安定化剤によるGPR35を介した脱顆粒応答抑制

演 者：岡 真純、赤木 莊太、寺崎 真帆、大野 修、田村 裕穂、斉藤 美知子、加藤 伸一、松野 研司、古田 和幸、田中 智之

受賞者：薬理学分野 博士前期課程2年次生 田中 里奈

演 題：アトピー性皮膚炎モデルマウスの掻痒行動に及ぼす神経活性ステロイド脳内投与の影響

演 者：田中 里奈、田中 智之、藤井 正徳

【学生優秀発表賞（ポスター発表の部）】

受賞者：薬化学分野 4年次生 高橋 暖

演 題：カルコゲン結合で立体制御したビピリジル部を持つ軸性不斉非対称ウレアの合成

演 者：高橋 暖、中村 梨那、太田 萌絵、井上 拓美、村井 琢哉、笹森 貴裕、浜田 翔平、小林 祐輔、古田 巧

受賞者：薬品製造学分野 5年次生 吉岡 虹太

演 題：ヨウ化サマリウムを用いたトリフルオロアセトアミド基をラジカル前駆体とする閉環反応の開発

演 者：岩崎 宏樹、吉岡 虹太、花木 真子、山下 正行、小島 直人、南部 寿則

受賞者：薬品化学分野 5年次生 川北 百花

演 題：大環状BACE1阻害剤を基盤とするP4位置換基の構造活性相関研究

演 者：川北 百花、大谷 拓也、服部 恭尚、大石 真也、小林 数也

受賞者：薬品化学分野 5年次生 辻岡 里菜

演 題：Coibamide Aの構造活性相関研究：N末端の直鎖状構造の変換

演 者：辻岡 里菜、鈴木 力斗、Mattos Daphne、小林 数也、Ishmael Jane、McPhail Kerry、大石 真也

受賞者：代謝分析学分野 博士課程3年次生 面川 真里奈

演 題：新規糖連結白金錯体と¹⁹¹Pt標識体のマウスにおける体内分布評価

演 者：面川 真里奈、木村 寛之、初川 雄一、河嶋 秀和、安井 裕之

受賞者：代謝分析学分野 博士課程4年次生 古川 武典

演 題：Erythropoietin-producing hepatocellular receptor A2イメージングプローブとしての
[¹²⁵I]EFT-7の開発研究

演 者：古川 武典、木村 寛之、志賀 智華、吉村 茜音、屋木 祐亮、河嶋 秀和、安井 裕之

受賞者：公衆衛生学分野 5年次生 大西 英里加

演 題：オオツヅラフジ (*Sinomenium acutum*) 茎および根茎中のがん幹細胞増殖抑制活性物質の探索

演 者：大西 英里加、松本 崇宏、北川 翔大、岡山 真也、中村 誠宏、太田 智絵、吉田 達貞、渡辺 徹志

受賞者：細胞生物学分野、微生物・感染制御学分野 博士課程2年次生 山田 倫暉

演 題：アシネトバクターバウマニのコリスチン耐性に関与する二成分制御系 PmrAB が制御する遺伝子群の解析

演 者：山田 倫暉、鴨志田 剛、山口 大貴、松岡 萌々子、中村 友香、山内 玲佳、藤室 雅弘、八尋 錦之助

受賞者：細胞生物学分野 5年次生 北村 友梨奈

演 題：がんウイルス感染が誘導する宿主USP5の脱ユビキチン化修飾

演 者：北村 友梨奈、池田 茉莉那、祝迫 佑紀、関根 勇一、前本 佑樹、伊藤 昭博、藤室 雅弘

受賞者：細胞生物学分野 4年次生 角谷 廣智

演 題：抗HSV-1/2活性を示す低分子化合物YG-67の作用機序解析

演 者：角谷 廣智、田中 旭、河瀬 順、吉田 昌弘、藤室 雅弘

受賞者：細胞生物学分野 4年次生 鹿井 遥花

演 題：カポジ肉腫関連ヘルペスウイルス遺伝子ORF9はウイルスゲノム複製に重要である

演 者：鹿井 遥花、祝迫 佑紀、関根 勇一、藤室 雅弘

受賞者：生化学分野 博士課程2年次生 安武 隆司

演 題：細胞分裂特異的なEphexin4のリン酸化解析

演 者：安武 隆司、幸 龍三郎、齊藤 洋平、中山 祐治

受賞者：生化学分野 6年次生 太田 稜子

演 題：がん遺伝子v-SrcはAurora Bの活性を抑え二核細胞を形成する

演 者：太田 稜子、渡邊 卓美、和澤佑樹、幸 龍三郎、齊藤 洋平、中山 祐治

受賞者：病態生理学分野 5年次生 小西 和也

演 題：転移予定臓器における組織酸性化の転移巣形成への寄与

演 者：小西 和也、松井 透磨、戸田 侑紀、細木 誠之、芦原 英司

受賞者：病態生化学分野 5年次生 神保 里菜

演 題：ダウン症脳での銅蓄積の責任遺伝子座の絞り込み

演 者：神保 里菜、高田 修治、齊藤 美知子、山川 和弘、河下 映里、左合 治彦、秋葉 聡、石原 慶一

受賞者：病態生化学分野 5年次生 千代 華歩

演 題：ダウン症モデルマウスにおける脳での銅蓄積と情動記憶障害の相関性

演 者：千代 華歩、河下 映里、秋葉 聡、山川 和弘、石原 慶一

受賞者：薬物治療学分野 5年次生 高山 麻由

演 題：Ca²⁺高透過性TRPV6の炎症性腸疾患の病態における保護的役割

演 者：高山 麻由、森 風帆、齊藤 美知子、安田 浩之、松本 健次郎、加藤 伸一

受賞者：薬物動態学分野 5年次生 登坂 一樹

演 題：FOLFIRINOX長期治療時のモデリング&シミュレーションアプローチによる予後予測の検討

演 者：登坂 一樹、川北 亜実莉、伊藤 由佳子、河渕 真治、柴田 敏之

受賞者：臨床薬学分野 4年次生 吉田 梨紗

演 題：ヒト乳癌細胞株のPARP阻害薬耐性化が 浸潤能に影響を及ぼす要因の解明

演 者：吉田 梨紗、山田 奈月、大西 蘭、宮谷 茉莉、湯浅 遥菜、辻本 雅之、西口 工司

受賞者：健康科学分野 5年次生 戸井 真也

演 題：健康サポート薬局研修の達成目標に対する研修修了者と未受講者の到達度比較

演 者：戸井 真也、棚橋 嵩一郎、今西 孝至、長澤 吉則

受賞者：シナジーラボ（旧：統合薬科学系） 5年次生 宗野 虎滋

演 題：ライトシート顕微鏡を用いたα-シヌクレインの脳内伝播の空間的可視化法の解析

演 者：宗野 虎滋、西村 周泰、扇田 隆司、伊東 春香、斎藤 博幸、高田 和幸

.....

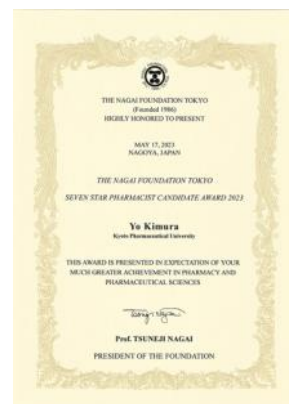
■ 薬剤学分野の木村葉さんが日本薬剤学会第38年会において日本薬剤学会永井財団学部学生七つ星薬師奨励賞を受賞しました

2023年5月16日～18日に開催された日本薬剤学会第38年会において、薬剤学分野の木村葉さんが日本薬剤学会永井財団学部学生七つ星薬師奨励賞を受賞しました。

受 賞：薬剤学分野 6年次生 木村 葉

演 題：腎臓虚血再灌流時におけるセリン修飾高分子キャリアの腎臓移行性と抗酸化剤の腎臓ターゲットティングによる腎臓障害抑制効果

演 者：木村 葉、勝見英正、安富彰一龍、辰巳日向子、松浦 悟、森下将輝、山本 昌



■ 生化学分野の池田有紀さんが第69回日本生化学会近畿支部例会において優秀発表賞を受賞しました

2023年5月27日に開催された第69回日本生化学会近畿支部例会において、生化学分野の池田有紀さんが優秀発表賞を受賞しました。

受賞：生化学分野 博士課程3年次生 池田 有紀
演題：脱SUMO化酵素DESI1の細胞分裂における機能解析
演者：池田有紀、幸龍三郎、齊藤洋平、中山祐治



■ 代謝分析学分野の面川真里奈さんがThe 25th International Symposium on Radiopharmaceutical SciencesにおいてTravel Awardsを受賞しました

2023年5月22日（月）～26日（金）にホノルルで開催されたThe 25th International Symposium on Radiopharmaceutical Sciencesにおいて、代謝分析学分野の面川真里奈さんがTravel Awardsを受賞しました。

受賞：代謝分析学分野 博士課程4年次生 面川 真里奈
演題：Evaluation of biodistribution of a novel sugar-conjugated platinum complex labeled with ^{191}Pt in mice.
演者：Marina Omokawa, Hiroyuki Kimura, Yuichi Hatsukawa, Hidekazu Kawashima, Hiroyuki Yasui

※学年は受賞当時のもので掲載しています

■ 専門・認定薬剤師資格取得支援プログラム「Lehmannプログラム」における「症例検討会・データ検討会」の開催記事が薬事日報に掲載されました

専門・認定薬剤師資格取得支援プログラム「Lehmannプログラム」における「症例検討会・データ検討会」の開催記事が薬事日報（2023年3月3日）に掲載されました。



掲載記事については本学公式Webサイトよりご覧ください。
<https://www.kyoto-phu.ac.jp/compendium/paragraph/>



下記の方々からご寄附をお寄せいただきました。ご協力ありがとうございました。

* 高額のご寄附（10万円以上）を頂いた方は、京都薬科大学奨学金規則及び学生便覧に掲載させていただきます。

* 敬称略、芳名のみ掲載しております。

* 100万円以上を頂いた方は、愛学館エントランス『京都薬科大学 高額寄附者顕彰銘板』にも掲載させていただきます。

2023年3月～2023年5月にご寄附をお寄せいただいた方々

＜卒業生・同期会等（五十音順）＞

進藤 広彦	鈴木 宏樹	三谷 高徹
安住 京子	武田 忍	八崎 輝義
池田 典子	武田 禮二	安田美栄子
大西 和代	丹所 稔	安田 仁
児山 道代	中森 省吾	吉田 啓子

京薬47会

＜保証人（五十音順）＞

石原 正道	小林 修	中川 美宏
川井 学	田中 浩之	

＜法人役員・評議員・職員等（五十音順）＞

近田 厚子（理事）

（2023年5月31日現在）

《お詫び》

「KPUNews4月号（No.213）」の24ページに掲載いたしました京都薬科大学奨学寄附金芳名録の欄にて、掲載に誤りがありました。

【誤】＜卒業生・同期会等＞西野 武志 【正】＜法人役員・評議員・職員等＞西野 武志（名誉教授）

関係者の皆様にご迷惑をおかけしましたこと深くお詫び申し上げます。



KPUNews No. 214 2023年7月発行／編集：KPUNews編集委員会

発行：京都薬科大学 〒607-8414 京都府京都市山科区御陵中内町5 ☎075-595-4691（企画・広報課）

※本誌掲載の文章及び写真の無断転載を禁じます。